



日本学校カウンセリング学会 Japanese School Counseling Association

学会・研修会(第32回大会)プログラム (共催 財団法人 生徒指導士認定協会)

学校現場で具体的に確実に使えるカウンセリング、生徒指導を提案している学会です。
児童生徒を効果的に指導したい、さらに高度の指導力を身につけたい、具体的な指導が知りたい、また自信のある指導をしたいとお考えの方に最適です。

期 日 平成29年1月7日(土)

場 所 アスト津
〒514-0009 三重県津市羽所町700 (JR津駅・近鉄津駅から徒歩2分)

参加対象 幼・小・中・高・大の教員、教委・研究所・センターの先生、学校心理士
生徒指導士・臨床心理士・スクールカウンセラー、その他

参加費 4000円
「学校心理士資格更新A」(*午後の講習会が該当)は1p、
「生徒指導士及び学会認定ポイント」は1pとなります。

内容

口頭発表・講習会

受付 9:00 ~ 9:10

午前 口頭発表 9:10 ~ 12:00

昼食

午後

講習会 13:00 ~ 15:00

学校心理士 A該当研修会です。

講師 宇田 光 先生 (南山大学教職センター教授)

演題 「米国の生徒指導」

米国の学校における生徒指導の体制は、専門分化が進んでいる。数多くの学校に生徒指導士が配置されていて、問題行動があると対処するのである。理論的な柱は、カウンセリング・TET教師学から、ゼロトレランス、さらにPBIS(ポジティブ生徒指導)へと推移してきた。なお、今回は学校での「安全」を確保する方策という視点から、これらをとらえてみたい。

教育セミナー 15:00 ~ 16:00

講師 松山 康成先生 (寝屋川市立啓明小学校 広島大学大学院教育学研究科)

演題 「PBISの理論的背景と日本における実践の展開」

現在アメリカの20%の学校で取り込まれている PBIS (Positive Behavioral Interventions and Supports :ポジティブな行動介入と支援)は、日本においても実践がみられつつあります。ここでは、PBISの理論的背景を確認しつつ、日本における実践を展望し、これからの展開例について考えます。

口頭発表

ポジティブ心理学の強みを生かした授業実践9:10~9:25 15分
石川 真史 (三重県立聾学校)

今回は、ポジティブ心理学の強みに関する授業実践を行なった。日本版生き方の原則調査票の24個の強みから個々の児童に合わせて選択させ、言葉のイメージを膨らませた。その後、強みを生かした具体的な行動を取ることができるようまでを行なった。今回の口頭発表では、自分が取り組んだ授業の流れや成果などを紹介したい。

大学生の対人ストレスに対する3次元(接近回避、問題-情動、行動-認知)モデルによる
コーピング分類が心理的ストレス反応に及ぼす影響9:25~9:35 10分
市川 哲 (大阪産業大学学生相談室)

大学生が遭遇するストレスに対していかなる対処(コーピング)を行うのか、それによって生じる心理的ストレス反応の程度が決定される。本発表では、コーピングを3次元(接近回避、問題-情動、行動-認知)の組み合わせの分類によってとらえる。そして、大学生が、遭遇する対人関係のストレスに対して採択・実行する1, 2, 3次元分類に基づくコーピングは、それぞれ大学生の心理的ストレス反応にどのような影響を及ぼしているのかについて、質問紙調査の結果を報告する。

命の教育によって向社会性を育て、いじめを防止する道徳教育9:35~10:05 30分
中野 真悟 (刈谷市立日高小学校)

いじめ防止のために、道徳教育と関連付けた生徒指導実践を行った。命の大切さについて実感を深める道徳教育実践を行うことで、命をもつ他者を大切にしようとする向社会性が育ち、いじめ防止につながるだろうと考えた。C. Daniel Batsonの「共感-利他性仮説」を基にした「利他的動機づけ理論」を活用して実践した結果、いじめにつながる反社会的行動が減り、他者の反社会的行動や援助の要求に気づいて対応するようになった児童が増えた。

生徒指導に活用されるアメリカの先生向け教材販売店について10:05~10:25 20分
福井 龍太 (茨城県立医療大学)

いじめ アメリカには、学校教員が購入し、教室内で活用するための教材を販売する店舗が存在するといわれる(市川千秋先生との私信)。本発表では、2016年10月に訪問したアメリカの教材販売店について報告する。店舗には、各教科指導のための教材だけでなく、PBISに活用できる掲示物が広く販売されており、教師がそのような教材を独自に活用できる環境があることが判明した。

休憩

中学教員からみた7分面談について10:30~11:00 30分
定金 浩一 (大阪産業大学)

教育相談の必要性が訴えられている現在、教師の多忙感を少しでも軽減して行える面談として7分面談を提唱している。7分面談は、導入1分、展開①3分、展開②2分、まとめ1分を目安に解決志向型アプローチの考え方で面談を構成している。7分面談は筆者が試行錯誤して行っていたが、高等学校の現場では適用が可能であることが判明しつつある。中学校での適用可能性について研修会受講者のアンケート等の分析をもとに考察する。

これだけいろんなことをやっています!
-スクールカウンセリング実践事例集-11:00~11:30 30分
大前 泰彦 (和歌山県明洋中学校(スクールカウンセラー))

本報告は、スクールカウンセリングにおける実践事例の紹介である。学校現場におけるカウンセリングでは様々な事例を担当することになる。学校ごとに課題は多少なりとも違っているし、生徒や教職員一人一人は異なる個性を持っている。「〇〇療法」の専門家として深く追究していくよりも、カウンセリングを受ける者の立場に立ち、実践に責任を持つ者として常に職責を意識して勤務すべきである、何でも取り入れ臨機応変に活用していくことを常識とすべきである。本報告では、その一端を紹介しながらフロアの皆さんと交流できることを希望している。

不登校を激減する方法~支援会議での戦略11:30~12:00 30分
工藤 弘 (長野県安曇野市立三郷小学校)

子ども、保護者、学校側(担任・不登校コーディネーター・相談員)で行われる相談を支援会議と呼ぶ。この支援会議では、「学校に行きたくない」と困惑している子どもがどのくらいの登校時間や相談室利用などによってなら登校できるのかを決めだす会議である。学校側では事前に支援準備会議を開き、その子の「学校に行きたくない」と思った負担の理由を十分に考え、登校できるだろう軽減策を支援準備会議で検討し支援会議で提案する。支援会議で決める約束の手順、種類などを発表する。

※大会または発表に関するお問い合わせは、日本学校カウンセリング学会事務局のメールにてお願いいたします (office.jzca@gmail.com [西口利文])。